

新 1 年生の光と影

榎場 雅子

（臨床心理士・精神保健福祉士）

新 1 年生、その言葉の響きに弾むような思いが伝わってきます。そしてそこには、密かに潜む、不安が隠れていることも見逃せません。

○ 入学の子とあゆみゆくグラウンド 砂に桜の蕊まじりいる 吉川宏志「西行の肺」

若い父親が 1 年生になるわが子の手をひく姿が浮かびます。細かい描写を生かした日常詠ですが、砂にまじった桜の蕊が、どこかに憂いを帯びて、読めてきます。若い父親の微妙に揺れる心情が、伝わってきます。咲いている花でも、散っている花びらでもありません。地味な蕊が砂にまじっているところに、焦点を当てているところに、巧まざる技巧があり、偽らざる心情が伝わってきます。

入学式もない頃、若い B お母さんから、こうした微妙に揺れる心情を訴える相談が入りました。「4 月から小学校に入学したひとり娘。入学後はじめての授業参観がありました。驚いたことに、家では明るくお喋りな娘が、分かりきった問題にも全く手を挙げずに、もじもじしていました。先生は、「元気にしていますよ」と言ってくくださったのですが、改めて家での様子を考えると、幼稚園の頃のように外で遊ぶことも少なく、金曜日ともなると、グッタリしたようにゴロゴロしていることが多い。勉強を教えようとしても、不機嫌になる。強制はしないでいるが、あれやこれや、考え合わせてみると、学校嫌いの前兆ではないか、と心配になりました」との切々とした訴えでした。

お母さんのお気持ちはよく分かるが、一般論的に言って、小学校に入学したばかりの 1 年生は、親が想像している以上に緊張し不安を感じ、疲れていると言われています。この時機にお母さんが、お子さんにして上げるべきことは、心や体の疲れを癒して上げることに尽きると言われています。小学校に入学した子どもに、お母さんが掛ける言葉は、「学校はお勉強をするところなのよ。」「元気よく手をあげるのよ。」「お友達できた？」が、ダントツ上位三位と言われています。そして、それはそのまま、子どもがプレッシャーと感じる上位三位になっていると言われています。参考にして欲しい、と伝えました。

B お母さんは、いとも素直に、「私はその三つの言葉、ほとんど毎日のように言っていました。反省させられました」と言ってくれました。

それから 1 週間、B お母さんから再び電話が入りました。「ゴールデンウィークには娘の発案で牛久大仏と上野動物園に行ってきました。そこで思わぬ気づきがありました。娘は電車に乗るにも、バスに乗るにも、施設見学にも、子ども料金の支払いを求められました。極あたり前の話ですが、私たち、家族 3 人にとって、身近に共有して感じた「幼稚園児と小学生は違う」という実感でした。楽しかった話と共に、家族みんなで、こんな話ができただことは、私ども家族にとっては、まさに、「ゴールデンプレゼント」でした」と結びました。

多くの子どもたちは、こうした幼稚園・保育園との違いを知って、入学したわけではありません。これからどんなことが展開されていくか、イメージを持つことができず、戸惑いを覚えています。気の弱い子、神経質な子、少々甘えん坊な子、一生懸命が過ぎて気楽になれない子などにとって、不安と緊張の連続だと思えます。大人が思う以上に大変な負担になっていることは理解できます。

子どもの成長、発達はずきんとした順序を踏んでいくものであり、決して二段跳び、三段跳びは、できません。例えば、積極性や、自発性は個が確立されない間は、実現するものではありません。そして、個の確立は親との間における十分な信頼感と自立感とが獲得できなければ成立しません。

親には子どもに対する限りない望みがあります。わが子には、こうあって欲しいという、願いがあります。体が丈夫で、そのうえに十分な体力をつけさせたい。しっかりした学力を習得して学業成績を高めたい。みんなから好かれる子、優しくて思いやりのある子に育てて欲しい。などなど、親なればこそ、大きな期待をかけるのは当然のことです。

こうした、さまざまな願いを実現させるためには、「子どもの心の育ち」が最も大切なことです。心とは、家の建築に例えれば、土台であり柱です。これが強ければ、どんなことがあっても耐えることができます。また、心は袋や壺と同じです。入り口が狭く固ければ、壊れやすく良いものも、少ししか入りません。心は、広く大きく、しなやかで強くあって欲しいものです。

そして、それを育てるのは、家庭であり親であることに他なりません。

ここで改めてBさん宅のことを考えてみましょう。一見して、極フツの家庭でフツの親子のように見えますが、ゴールデンウィークに出かけたお楽しみで、娘が児童から学童になったことを、家庭で共有する実体験としてうけとめ、「ゴールデンプレゼント」と表現しています。

これぞ、土台も柱もしっかりした家庭であり、入り口の広い「心」という名の袋であり、壺ではないでしょうか。

〈こころの電話相談室〉

心の悩み、心のケア、心の健康に関する電話相談室をご利用下さい。

相談日 毎週木曜日 午前9時～午後9時

相談担当 榎場主任相談員 電話番号 04-7100-8369 個人情報厳正に取り扱います

〈地域の安心システム〉★若いお母さんの愛娘への濃やかな愛情と家族の温もりがジーンと伝わってきます。相談員との心の交流が美しく調和します。★平成26年4月に「新しいふれあい社会」を創刊し、地域が抱えるさまざまな課題を提起してきました。27年4月には〈こころの電話相談室〉を開設し、家族や家庭の悩みの相談支援を行なってきましたが、年間128件に達する相談などが寄せられました。★我孫子教育委員会などの協力をえて、この情報誌を市内小中学校の先生(約600人)や民生委員(約170人)にも配布していますが、大きな反響の背景に何があるのでしょうか。★2050年に向けて日本の人口は急減し、超少子高齢化が一段と加速されます。家族と行政と地域の一体的な工夫と力量が問われる時代を迎えた今、地域の安心システムとしての新しい支え合い活動がますます重要になってきました。★もし若いお母さんが心の悩みを誰にも打ち明けられずに悶々としていたならどうなったのでしょうか。筆者が強調するように、子供を育てるのも、家族の問題を解決するのも結局は親であり、家庭だと思えます。そこに学校や地域の力が少し加味されれば、家庭の問題解決力は倍増し、家族の危機も半減するはずです。私たちもこの活動を続けることの意義と必要性を確信できました。★引き続き7月号では新中学生の光と影に迫ります(h)。 独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業(申請中)